

4-6-3. 遠隔教育プログラム推進室

1 遠隔教育プログラムの開発

遠隔教育プログラム推進室は、遠隔教育に関する検討準備状況の進捗に応じて、遠隔教育推進室、遠隔教育準備室、遠隔教育プログラム開設準備室と名称・組織を変更しながら、業務を推進してきた。平成19年度からは試験的に遠隔教育における授業科目を開設し、平成20年度からは科目等履修生を対象とした遠隔教育による授業科目を開設して、遠隔教育の可能性と課題を探り、検討と試行を進めてきた。

第2期中期計画においては、教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置として、「学校現場のニーズに応えるため、多様な教育機会を提供する。」とし、平成22年度年度計画においては「多様な教育機会を提供するため、インターネットを活用した遠隔教育推進に向けて実施体制を拡充する。」としていた。

このため、平成22年8月に学内に検討組織として、企画戦略室にインターネット大学院検討委員会、その下にインターネット大学院基本構想検討部会を設置して、多様な教育機会の提供など新たな社会の要請に応えるため、平成24年度からのインターネットを活用した大学院（修士課程）の開設に向けた検討を開始した。

インターネット大学院検討委員会においては、ニーズ調査の実施やコース設定の考え方などを検討することとし、具体的なニーズ調査の実施内容、方法、カリキュラム検討、教職員配置、設備等の条件整備は、インターネット大学院基本構想検討部会で検討を行うこととした。

また、平成22年9月から11月にかけては、現職教員や教育委員会等を対象にしたニーズ調査を実施した。その結果、現職教員に対してインターネット大学院で学んでみたいかとの問いに約4割が肯定的な回答をするなど現職教員のニーズが確認できた。

インターネット大学院検討委員会とインターネット大学院基本構想検討部会の合同の会議により「インターネット大学院基本構想書」を取りまとめ、教授会の了承も得て、本格的な遠隔教育プログラムの開発を開始した。

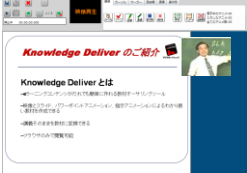


平成26年度からは、学内の協力を得ながら、現職教員を対象とした修士課程「インターネットを用いた遠隔教育による大学院プログラム」（略称「遠隔教育プログラム」）を開始した。

2. 遠隔教育プログラムの授業提供

遠隔教育プログラムでは、下記の方法により、働きながら学ぶ現職教員、教育関係者の

利便性と大学院教育としての質保証を考慮し、表1のように、いつでもどこでも受講できる「ストリーミング授業」を中心としながら、高機能多地点テレビ会議システムを用いた「リアルタイム授業」、対面授業である「スクーリング授業」の3形態で授業を提供した。

表1 遠隔教育プログラムの授業提供形態

授業の種類	授業実施方法	授業作成方法【教員】 授業受講方法【受講生】
講義，演習等	ストリーミング授業 ＋ LMS (インターネット) 	【教員】 ①普段行っている授業を録画するか、別途簡単な教材作成ツールを使うか手動で編集するかして、教員の顔や黒板の映像とプレゼン資料を合成した教材を作成して、ビデオ配信 ②活動指示，課題設定，資料提供，テストなどもインターネットでLMS（学習管理システム）を利用 ③電子掲示板で，討論をコーディネートしたり，質問に答えたりする。 【受講生】 インターネットを使って，いつでもどこからでも受講可能
ゼミ等	リアルタイム授業 (インターネット) 	【教員】 ①高機能多地点テレビ会議システムを使って，ゼミ生を指導する。 ②電子掲示板やメールでの討論，レポート・論文指導も併用する。 【受講生】 都合のいい時間をゼミ指導教員と事前に打ち合わせをし，指導を受ける。
実習，実技等	スクーリング授業 (対面) 	【教員】 入学時や長期休業を利用し，大学等に集合させ，対面で授業を行う。 【受講生】 入学時や長期休業を利用して，大学等にて集中講義を履修すると共に，指導教員や他の院生との人間関係も構築する。

また、履修モデルも2年の通常履修に加え、関連規定を改定して長期履修制度を遠隔教育プログラムにも適用可能とし、働きながら学ぶ受講生が2年分の学費で3年かけてゆったりと学ぶこともできるようにした。

なお、ゼミについては、一部の大学院生の希望により、夏季スクーリング以外にも随時本学での対面ゼミ、受講生の勤務地に出向いての対面ゼミも行い指導の充実を図った。

3. 遠隔教育プログラム推進室の業務推進体制

平成 26 年度の遠隔教育プログラム推進室は、教員 2 名、事務職員 3 名が協力して、図 1 のイメージで、授業の編集・提供等の業務、大学院広報業務、学生支援業務、各種事務を行った。

学生からの各種問い合わせに対しては、遠隔教育プログラム推進室が一次窓口となり、ワンストップサービスとなるようにした。

また、遠隔教育で危惧される受講の遅延や履修に関する不安等を解消し、受講生の円滑な受講と研究活動を支援するため、メンターを配置し、気軽に相談に応じ、あたたかく受講生の大学院生活を支え、好評であった。

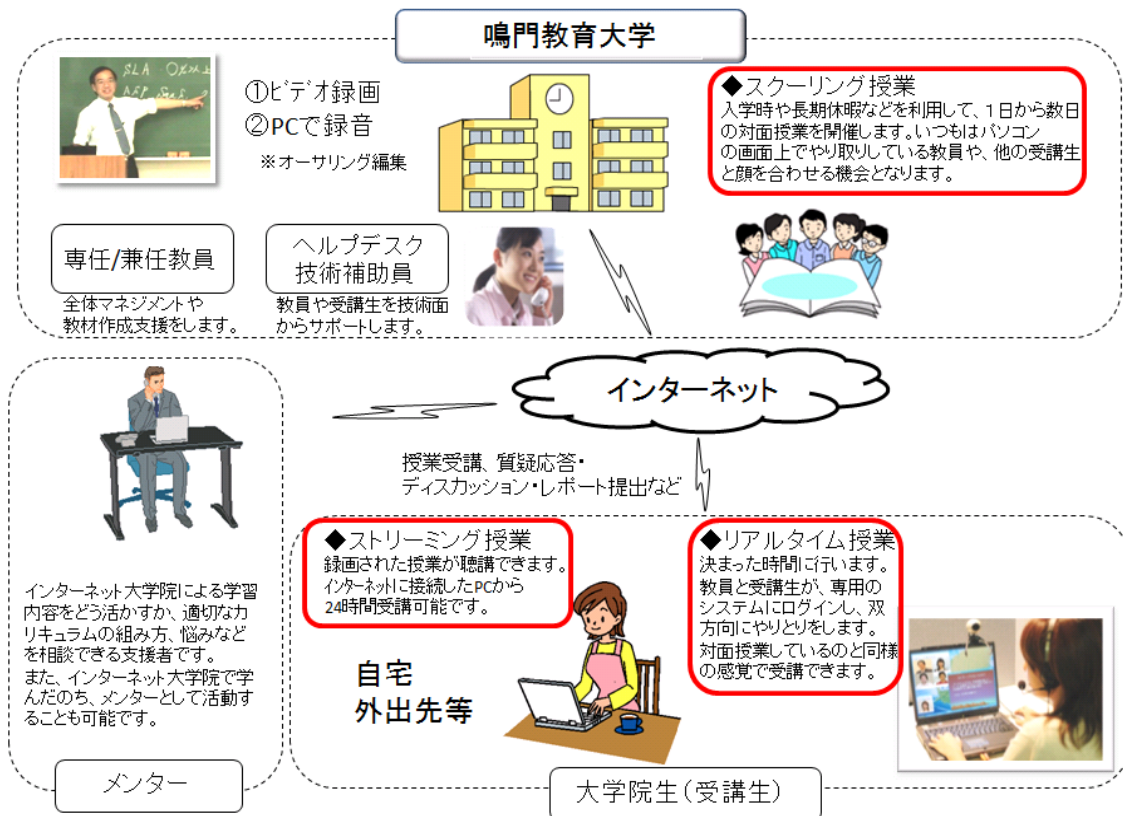


図 1 遠隔教育プログラムの業務推進体制と履修イメージ

4 遠隔教育プログラムの成果

(1) 本学の使命の側面から

ア 我が国の教員養成に対する修士課程レベルの社会的要求に応えた。

遠隔教育プログラムは、中央教育審議会「教員の資質能力向上特別部会」の審議経過

報告（平成 23 年 1 月 31 日）が提言する現職教員の修士課程レベルの資質能力を育成するものであり、この社会的要求に応えることができた。

イ 修士課程レベルの教員養成教育について、多様な教育の機会の提供をした。

現職教員の中には、修士課程での学修を希望しても学校や家庭の事情で現場を離れられず、通学による教育を受けられないものもいる。修士課程の教員養成教育について、通学や夜間によるもののほかにインターネット等を使った大学院遠隔教育プログラムにより、このような希望者に広く多様な教育の機会を提供することができた。

ウ 実践と理論の往還により、教員に求められる実践的指導力を向上させた。

教員に求められる実践的指導力は、教育に関する理論と実践とが関連・往還する中で、その向上が期待できる。現職教員は、実践の現場において常に実践上の課題をもっている。この実践的課題を遠隔教育プログラムにおいても理論を学び解決することで、教育に関する実践と理論の関連・往還が図られ、実践的指導力を向上させることができた。

（2）大学経営の側面から

ア 教育委員会派遣によらない大学院生の確保

地方公共団体における厳しい財政事情の中でも都道府県教育委員会による大学院派遣は減少傾向にある。そのような中で、遠隔教育プログラムは、休職することなく自費で大学院にて学ぶことができるため、教育委員会も履修促進に前向きであり、5で後述するように大学院の定員確保に貢献することができた。

イ 遠隔教育の授業・業務ノウハウの蓄積

平成 26 年度、本格的にインターネットを用いて大学院の授業を提供することにより、教員養成系大学院における、授業や受講支援、各種業務の具体的なノウハウを蓄積することができた。

5 遠隔教育プログラム受講生の状況

平成 26 年度は、北海道、山形県、宮崎県から修士課程 4 名・科目等履修生 1 名計 5 名の現職教員を受け入れ、遠隔教育プログラム推進室員のチームワークのもと、働きながら学ぶことを希望する現職教員・教育関係者の学習機会を拡大した。このことが高く評価され、平成 27 年度入学試験では、東京都、神奈川県、香川県、愛媛県、高知県、宮崎県と全国各地から 7 名、中国・上海 1 名と、国内だけでなく海外から計 8 名受験者を得ることができた。

以上のように、遠隔教育プログラム推進室は、表 2 の授業を提供し、これまで学ぶ意欲

をもちながらもその機会に恵まれなかった現職教員・教育関係者に対し学ぶ機会を提供し、
 本学が最大の目標とする高度な教職の専門性と教育実践力、かつ豊かな人間性を備えた高
 度専門職業人としての教員の養成に貢献した。

表2 遠隔教育プログラムの授業科目一覧

区分	科目名	単位	学期	備考	
教職共通科目	学校教育の人間形成的役割	2単位	前期		
	△現代の諸課題と学校教育Ⅰ	2単位	前期	集中講義，夏季 スクーリング時	
	□子ども理解と生徒指導	2単位	前期		
専門 科目	領域等 内容科目	*現代教育実践論	2単位	前期	
		*現代学校文化論	2単位	後期	
		*現代学習環境論	2単位	前期	
		*現代教育情報論	2単位	後期	
		*総合学習とカリキュラムマネジ メント	2単位	後期	
		環境と文化	2単位	前期	
		*□現代科学教育特論 (※自由科目とする。)	2単位	後期	
	領域等 方法科目	*○□現代教育課題特論	2単位	前期	集中講義，夏季 スクーリング時
		*○□異文化理解と人間形成	2単位	前期	集中講義，夏季 スクーリング時
		*□現代学校経営・授業改善論	2単位	前期	
		*教育情報化特論Ⅰ（教材・授業 開発論）	2単位	前期	
		*□教育情報化特論Ⅱ（実践論）	2単位	後期	
		*△現代授業メディア論	2単位	前期	集中講義，夏季 スクーリング時
		□コミュニケーションと言語・ 教育	2単位	後期	

応用 実践 科目	広領域 コア科目	<input type="checkbox"/> コミュニケーションと言語・ 教育	2 単位	後期	
		学校危機管理研究	2 単位	後期	
		予防教育科学	2 単位	後期	
	教育実践 フィールド 研究	教育実践フィールド研究（総合）	4 単位	通年	
課題研究		課題研究 I	4 単位	通年	
		<input type="checkbox"/> 課題研究 II	2 単位	前期	

※ *⇒遠隔教育プログラム用授業

※ △⇒隔年開講（平成 26 年度開講，平成 27 年度未開講）

※ ○⇒隔年開講（平成 26 年度未開講，平成 27 年度開講）

※ □は平成 27 年度開設，他は平成 26 年度開設